

快進撃!! 加茂支団第3分団 千葉支部大会も制覇!

久保・外部田・山口・駒込

夏の大イベントの消防操法大会。加茂地区大会を激戦の末勝ち上がった第3分団(平野昭実分団長・久保・外部田・山口・駒込地区)は6月18日、市防災センターで行われた市原市消防操法大会に出場しました。

操作員は、(敢称略)指揮者: 根本正行、1番員: 斎藤真一、2番員: 斎藤孝、3番員: 鶴岡公徳の皆さん。結果は期待通り2位の分団に10点以上の大差をつけて優勝しました。更に個人賞として最優秀各操作員に根本正行さん・斎藤真一さん・斎藤孝さんが選ばれました。この数年、時々他の地区に優勝をさらわれていた加茂地区代表ですが、またここで賞状を見せ「加茂を制する者は市原を制す」と言わせる様な素晴らしい技でした。



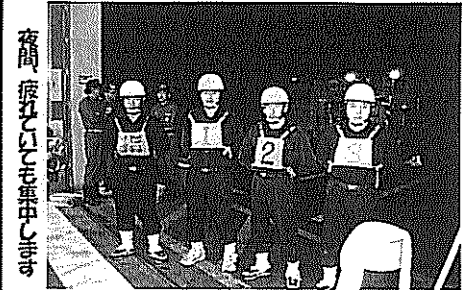
消防団ポンプ操法大会

そして第3分団の快進撃はまだ続きます。

7月2日、習志野市役所で行われた千葉支部大会(市原・千葉・八千代・習志野)に市原市代表として臨んだ第3分団は他の地区とのレベルの違いを見せつけ、またまた優勝! 今度は7月29日に千葉市仁戸名町の県消防学校で行われる第49回千葉県消防操法大会に出場します。

酷暑、炎天下の予想される県大会です。団員の皆さんには充分体調に気を付けて臨んでほしいと思います。県大会の応援は各地区とも物凄い盛り上がりを見せています。お時間の許す方は是非応援に行かれてはいかがでしょうか?

今年は更に第3分団の目標は上に向かっています。県大会を制して全国大会(10月19日兵庫県・三木市)への出場です。実際に過去6年間小型ポンプの部で市原市代表は4度県大会で優勝しています。それだけ市原市のレベルの高さがうかがわれます。期待したいですね。そして全国制覇...いや、夢ではないかもしれません。現に平成10年の全国大会では、お隣の大多喜町消防団が全国制覇を成し遂げました。操作員の中には知人もいて驚いた事もありました。



ただ思いを巡らせれば膨らむばかりなのですが、団員の皆さんは地道に毎日の練習に励んで、一歩一歩技術の積み重ねをされています。皆さん仕事を持っておられるので夜間練習が殆どです。熱が入ると11時過ぎになることもしばしばです。

私達は、ただただ、怪我も無くベストの状態で大会を迎えることを願うばかりです。ご健闘を祈ります。

加茂里山通信

平成18年夏号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集
発行責任者 大曾根友三
編集長 佐久間眞明

いちばら100km徒歩の旅

マイト! 小学生にあなたが! 声援を

(社)市原青年会議所ではこの夏、いちばら100km 徒歩の旅、という事業を開催いたします。

この事業は、その名の通り子供たち(小学生4年生~6年生)が、市原市内を100km歩きまわります。今まで経験したことがない困難にぶつかり、克服することで、子供達に「生きる力」をつけさせる事が目的です。

真夏の炎天下、小学生たちが一生懸命、自分たちの足だけを頼りに100kmを歩きます。行程を記載させて頂きますので、小学生たちに温かいご声援を是非お願い致します。皆さんのご声援が小学生たちの力となり、歩を進ませます。

いちばら 100km 徒歩の旅 行程
8月1日(火) 姉崎神社・有秋南小(10:00)~久保自治会館(14:30)~寺谷小(16:20)

8月2日(水) 寺谷小・南総公民館(7:30)~鶴舞小(10:10)~市原さうの国(12:10)~高滝小(14:30)

8月3日(木) 高滝小・加茂支所(9:40)~南部老人福祉センター(12:00)~白鳥小(14:20)

8月4日(金) 白鳥小・養老溪谷駅(11:30)~小湊鉄道移動・光風台駅(13:00)~農業センター(14:30)~市西小(15:40)

8月5日(土) 市西小・国分尼寺(7:50)~若葉小(10:00)~臨海競技場(11:30)~出光会館(15:00)



里見小にも米米の輪広がる



女の子達、なかなか上手でしたわ

数年前から白鳥小と高滝小で始まった米作りもすっかり軌道に乗ってきたようですが、そんな活動を間近で見届け、熱中していただけないのが里見小の皆さんでした。そこでつい今春、5年生の手で田植えが始まりました。場所は学校の側にある田んぼで大野喜代志さんが提供して下さったそうです。広さは約150㎡で他の小学校に比べると小さいのですが、初めての田植えに皆ドキドキワクワクの様子です。

そして田植え当日の5月15日、子供達の気持ちを後押しするように天気は快晴。指導は平野の石渡明光さんです。

植え方は石渡さんの提案で、昔加茂地区で広く行われていた方法が再現されました。まず最初に田んぼの長辺に沿って1本長く綱を張ります。それには等間隔に(今回は8寸間隔)印が付けれられています。その印に1株ずつ苗を植えていきます。次にその6株おきに、長い綱と直角に別の綱を張ります。つまり6株の列を1つのブロックとして1人が担当し、植えて行くのです。しかし「あとすきり」しながらの慣れない作業に最初は等間隔が上手に取れず苦労していました。大人でも手元を見ながらの田植えは曲がっているのが自分では分かりづらく、周りから見てもわからないと上手に行きません。それでもさすがに子供達は飲み込みが早く、1時間余りで初心者とは思えない見事な仕上がりで田植えが終了しました。いつも以上に楽しそうな生徒達を見ながら、校長先生は「米作りを通して食料に関心を持ってもらいたい。秋の収穫が楽しみです」と言っておられました。今里見小が植えたのはもち米で、収穫後は冬のマラソン大会で豚汁会食をする時にお餅にして出されるそうです。楽しみです。

そして「田植えの先生」である石渡さんから子供達にクイズが出されました。

Q: 今、日本人は1年間に1人平均50kgの米を食べるそうです。その50kgの米は何㎡の田んぼで出来るのでしょうか?

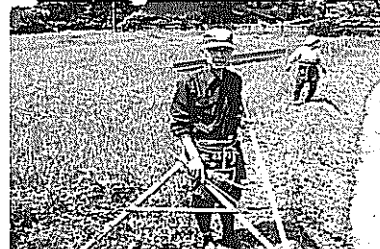
ヒント: 1本の稲穂で70粒の米がとれます。田植えの1株は15本の稲穂から出来ています。1㎡には20株植えられています。取れた白米7000粒が一合(150g)です。じっくり考えれば答えは出そうですね。

ところがさらに難しいクイズが待っていました。

Q: 今回植えた150㎡の田んぼで実際に秋の収穫でもち米が何キロとれるか?

天候に大きく左右されます。是非皆さんも考え、予想してみてください。正解は里山通信秋号で発表します。お楽しみに。

(佐久間里山通信員)



「石渡先生」ありがとうございました

インターネット
自動予約システム
<http://www.marinehotel.jp>
宴会・会議室
大・中・小宴会場
新年会・忘年会・歓送迎会
慶事・法事・展示会
研修会・講演会...等
御宴会・宿泊割引パックもあります。

市原マリンホテル 政府登録ホテルNo. 1328
TEL0436-21-5119 〒230-0081 市原市五井中央西2-22-8 FAX0436-21-5011
送迎用マイクロバス有り
無料駐車場有り

過疎化に思う

加茂の過疎化は進行する

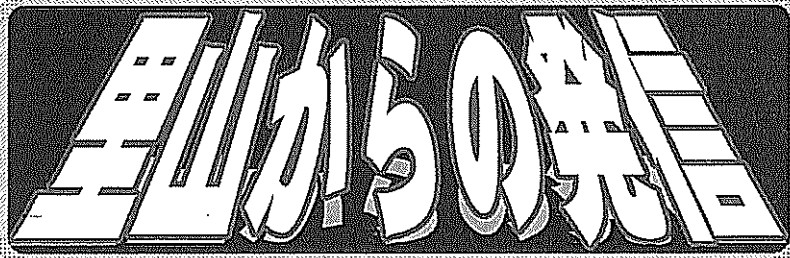
先日在る寄りの席で、もう十年もするとうちの周りは空き家だらけになってしまおうという話をした人がいました。今現在、老人が一人で住んでいて身寄りがいないか、家を出た若い者たちが帰ってくる予定がないか、いずれにしても将来的にはその家に居住する人間がいなくなってしまう、家だけが残るといいうことです。又、里山通信の春号に毎年掲載される小学校に上がる子供たちの人数も確実に減少していき、小学校や中学校に上がる時点で、親子ともども都市部に転居してしまうという例もありました。子供たちの数がさらに減少すれば、教育環境の観点からこうした傾向は増えるでしょう。こうして今現在でも独居老人の多い加茂地区の過疎化は年を追うごとに確実に進行していきます。

過疎化による教育の問題

過疎化によって起こる問題点はいくつかあります。中でも教育問題は大きな問題で、今からほぼ四十年前に、当時あった加茂地区の五つの中学校が統合されて加茂中学校となりました。加茂地区の小学校もひとつにまとめたという話も時々耳にするようになりました。(そうなることとての子供たちはスクールバスで通うということになるのでしょうか)在る程度以上の集団にならないと学習や運動のいい意味での競争意識が働かなかったり、集団での競技や行動で学ぶべきこともできないというところもあると思います。もちろん、少人数のクラスでの利点もたくさんあるのですが、どちらがよいとはいえないと思うのですが、子供たちにとってどちらがよいのか、これからそういう議論もされていくと思います。

他にも問題が

過疎化によってもたらされる問題は他にもいくつかあつて交通の利便性などもあります。利用者が少なくなる、路線の赤字解消のめどはない、鉄道の本数がどんどん減る、交通の利便性はさらに悪くなる、利用者はさらに減る、居住者も減っていく、そうした悪循環の繰り返しのようなことは、こと加茂地区だけでなく、全国の過疎地域に当然のごとく見られる現象です。



[PART1]

車を日常の足として利用する人にとつてはなんでもないことでも、運転のできないお年寄りや子供たちなどの交通弱者にとつては不便は増すばかりです。(今元気に暮らし車を運転できる人もいずれ年をとり、体が弱り、車の運転ができなくなつて交通弱者となるでしょうから、明日は我が身なのです) 又以前から何度か書いているように、いろいろな詐欺商法の連中は過疎の地域を狙つています。家同士が接していないから、接していても屋間空けている家が多かったり、情報に疎く一人住まいの家が多いところというのはいくらも狙われやすいところなのです。(火災報知器の設置に關しての詐欺事件がもうあつたそうです)

過疎化が進み人がいなくなるというところは、その家で持つていた田や畑がどんどん荒れていくことになりまふ。休耕田というシステムで荒れてしまつた田んぼがいつかある上に、やり手がなくなつて荒れてしまふ田や畑が増えていくというのは残念なことです。続けているからこそそれほど努力を伴わなくていいものの、一度荒れてしまつたものを元に戻すというのは肉体的にも精神的にも大変なことです。(かく言う私も忙しいう時期が続いてかまつていない間に畑が荒れてしまふ、再開に向けて気合を入れているところです)

もつと過疎の進んだ所から見れば

しかし、過疎化のマイナス面は他にもいろいろあるものの、加茂地区で言うところの過疎化現象というのは、他の本場に交通手段もないような過疎の地域から比べればまだいいほうなのではないかと思ひます。先日の新聞に、村自体が産廃業者から土地を提供し、その資金で過疎の地を脱するという記事が載つていました。先祖から受け継いだ土地を産廃のゴミ捨て場にしてしまふことは苦渋の選択だったでしょう。あまりに過疎が進み、もうこれ以上は生活できないというところまで来てしまつたということですが、中には反対者もいたものの、狭い共同社会の中では異議を唱えることもはばかられたということでした。(以前に仲間と山間部で田んぼをやり、稲刈りのときのお昼に、携帯電話で出前を取つたことがあります。どんぶり物が見事にその田んぼまで運ばれてきておいしい昼飯を食べました。その食堂は頼めば加茂地区の田んぼだらうが畑だらうが山の中だらうがどの場所にもデリバリーしてくれるかもしれませんが、本場に過疎化の進んだ地から見ればそういう食堂があること自体まだいい方だと思ふことでしょう)

今こそチャンス

田んぼのやり手がなくなつていくことは、やる気のある人間が広い面積の田んぼをやるチャンスでもあります。収入はもちろんだか多くなりまふし、十分専業でやつていけます。(だいたい、稲作の機械は効率的なものではないのです。田植え機、稲刈り機、乾燥機、いずれも一年のうちせいぜい一週間使うか使わないかというものが一般の農家でしょ。これを一軒でそれぞれそろえているのですから、これほどロスが多く効率的なものはないと思ひます。またこういう使い方は機会の寿命を縮めるでしょう。これらの機械は共同で使うか、広い面積で活用するかなければ、元も取れないなどということになつてしまひます)共同で広い面積をという方法はすでに始まつていますし、後継者不足といわれる日本の農業は共同経営や大規模農業へと進んで行くでしょう。やり手がいないという今こそ実はチャンスなのではないかと思ひます。

行政任せではなく

会社を定年で辞めた後、田舎で畑仕事をして暮らしていきたくて考える人は増えてきていると思ひます。そうした人たちが加茂地区に入つてきていることも事実です。人の数が少ないから住みやすいんだと考える人もいるでしょう。仮に団地ができて都市化するなどという話が出たら反対する人のほうが多いのではないのでしょうか。

過疎化に伴うさまざまな問題には、行政任せではなく、そこに住む私たちも知恵を絞る、発言し、行動し、多くの人と協力していかなければならぬでしょう。そうすることがいずれ自分たちが向き合う現実を目をそらすずに対峙できることを教えてくれると思ひます。



いつも変わる里山の情景

梅雨の中休みとなつたある日、少し寝不足だったために、広いところで昼寝をしたのですが、途切れなく鳴く鶯の鳴き声とともに竹林を抜けてくる風が本心に心地よく感じられました。過疎の話の出た先の寄りの席では鶯の話も出て、もう鶯のいることは珍しいことでもなんでもないのだと感じました。梅雨が明ければ油断のうなるような鳴き声が覆われます。山百合があちこちに花を開き始めます。

(征矢里山通信員)

がんばれ！青年団



斎藤会長(前列中央)と役員の方々

徳氏同志会

徳氏同志会(斎藤清治会長)は23年の歴史を持つ加茂地区で最も伝統のある青年会の一つです。最盛期には30名程いた会員も現在は20名と、やはり会員不足の悩みはここでもあるようです。

元来「酒でも飲んでお互いの親睦を図ろう」と始まつた会は、今でも肩を張らず楽しい行事を町会全体を巻き込みながら活動しています。春には花見会、夏には子供会と一緒に川釣り、秋から冬にかけては山芋掘り会(掘る場所は加茂地区全体を網羅しているらしい)を行うなど、加茂の四季を味わう王道を楽しんでいます。

20年程前には同志会が中心となり、町会と協賛して婦人会・子供会を巻き込みながら盛大に徳氏盆踊り大会が始まりました。現在は諸般の事情により中断していますが、その代わりに行つては夕涼み会(8月15日開催)は町会の皆さんと共に大盛況となっています。同志会には社会福祉法人昭和村や他の地区の盆踊りにも積極的に参加しています。それゆえ斎藤会長曰く「是非地元の方々の協力を得て徳氏の盆踊りを再開させたい」と願つています。

読者の皆さんはご存知でしょうか?毎年8月下旬に加茂支所の裏で行われる加茂地区盆踊り大会の「やぐら」は徳氏盆踊りの物が使われているのです。それだけ立派な物だということです。

そして高滝神社秋季大祭の神輿には、徳氏町会の総員を殆ど同志会でまかなつています。会員の皆さんの心に確かに燃えるものが感じられる「熱い」同志会でした。(佐久間里山通信員)

生活の足は どうなる?

生活交通について原点に返って思いを綴ってみました。

小学生

最近の子供を対象にした犯罪を思うとき、地域の宝である子供たちの安全を守ることは大人たちの責任だといえるのではないだろうか。

朝の風物のような集団登校の姿が見られるのが今では少子化をまともに受けて集団の数が減っているのは明らかである。最近では保護者の方が交代で付き添う姿も見られ、毎日のことなのでさぞ大変だろうと頭の下がる思いがしている。また通学距離が長いのもこの地域の特徴だろう。それでも子供たちは健気に学校へ通っているのである。

では、下校はどうなのだろうか。低学年と高学年では下校時間にズレがあり、集団というわけには行かない。ここにもやはり先生方と保護者に方のご苦労が伺われるのである。

中学生

中学生ともなれば集団登下校とは行かなくなる。自転車での通学と保護者の送迎が大半となっているのではないだろうか。雨降りの下校時間となれば加茂中の脇の道路は子供を待つ車の縦列ができている。

現実には自転車で登校途中に事故に遭い尊い命を失ったお子さんもおり、やはり保護者の方の心配の種になっていることだろう。

高校生

通う学校によって事情はそれぞれだろうが小湊鉄道の牛久発着便の利用者が基本になると想像される。ここにもやはり車での送迎が存在している。

高齢者

免許を持たない方は通院や買い物にもかなり不自由していられることだろう。まして老人世帯

いよいよ加茂バス走る?

かなりのハイペースで増加している。なかのこれからの大きな課題と捉えられる。では免許をもっている方は関係ないのだろうか。ここにも高齢者の方の事故率の問題が内包されている。それでも生活のためには運転しなくてはならないという現実。

こうしたところにも思いやりの手を差し伸べなくてはならないだろう。

「だからコミュニティバスが必要ではないのですか?」と活動しているところですが実現までにはまだクリアしなければならないこともたくさんあります。

・ 料金も含めて運行するための費用の捻出
・ 幹線道路を走らすとして、そこから遠い地域はどうするのか。
・ 鉄道との協調を図る効率的な運行はどういう姿なのか。

・ 通学、通院利用に便利なダイヤ編成。
また拾っていきば実現までにはもつとたくさん問題が出てくるでしょう。しかしまず走らせてみる事が先だと思えます。走らせて浮かび上がった問題をひとつずつ皆さんの知恵を借りながら解決していき、理想の姿に近づけていくべきだと考えています。

現在、小湊鉄道さんのプロの知恵を拝借しようとしているところなんです。もう少しで計画が固まるのか...? (大曾根里山通信員)

チャリティーボックスに 協力ありがとうございました

5月末から加茂地区各店舗の皆さんに設置協力いただいた、里山通信発行支援チャリティーボックスはおかげさまで持ちましてたくさん募金が集まりました。7月5日現在、なんと一万八千円を超える金額となりました。

改めて御礼申し上げます。

ここに協力いただいた各店舗を紹介いたします。角屋商店・林屋商店・おしやれショップ・中村・国本直置・安田屋商店・朝日屋商店・Yショップ・高山・仲道屋商店・田中肉店・石渡商店・林商店・石井商店・鈴木魚店・川口屋・デイリー・戸口・平田商店・鶴岡商店・しょうちゃん食堂・山口屋商店・金子商店・あさひ屋食堂・小茶自動車・深泉荘・Yショップ・斎藤(敬称略)

募金はこれからの発行に有意義に使わせていただきます。今後も引き続き協力宜しくお願いいたします。

助健家車

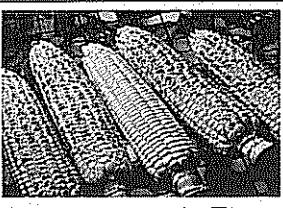
加茂の車窓から

過ぎやすいばかりの春も通り過ぎ、ぎんぎんに暑い夏がすぐそこま迫ってきています。加茂地区の皆さんはどうお過ごしでしょうか?

毎日仕事で明け暮れる方、または畑や田んぼなど農作業で忙しい方、遊んでいる方!いろいろな方がいると思いますが、暑い夏はやって来ますね。しかしそんな暑い夏の休日にBQはいかがでしょうか? 「あつBQってなに?」と思つた方、そうですね! 「スポーツボールクイズです!」なわけありません。お父さんわかりましたか? ほら、ちよつと前にテレビのCMで、「飲んだら、こう言っちゃうよ!」そうそうほら、「ビール・ビール・くわー(QOO)」近いけど違います。お母さんわかりましたか? ほら! 結構気になるあれですよ、「ボディ・ビューティ・クイーン!」えっ? 正解! あつ違いますから(すいません・笑) ハイ! 皆さんわかってると思いますが、「バーベキュー」です。

夏の夜空の下で普段の生活とは違うひと時はいかがでしょうか? 自然に囲まれた加茂地区に住んでいるのですから、これを活かすも殺すも皆さんの腕次第です。例えば、勤めている会社の上司や、同僚、後輩などを誘って、いざ加茂へ。バーベキューセットを持って食材探しにレッツゴー! まずは野菜から。ここで登場! 「直売所」なんて事か、この加茂地区にはスーパーなどなくても野菜は十分用意できますし、スイカ割りも出来るのです。しかも特価です。食材探しだけでなく、お土産用にも買って帰ってしまつては!

本紙大曾根通信員も直売所をやっていますが、たまごも売っています! バーベキューで目玉焼きや、ゆでたまごも簡単に作れ、ひと味違って美味いでしょう。お肉がほしければ、加茂地区の中心に田中肉店もありますし、生ビールや樽ハイが飲みたい方は、予約をしておけば、佐久間通信員(角屋商店)が現地までサーバーと配達に来てくれます。そして、お魚も食べたという方、養老川で釣って食べるのもよし、川魚が苦手という方、大丈夫ですよ。通信員の中



戸澤通信員、鈴木通信員、この2人は、そうです! 魚屋さんです。鮭や、鱈などのホイル焼きもバーベキューで簡単に作り食べる事が出来ます。もしかしら皆さん、里山通信を読んだんです。これからバーベキューやりたいんですけどう? と言うと、魚も特価で手に入る予感がしませんか? 「持つてけ泥棒!」なんてことも! (特に女性の方、買いに行つてみて下さい。合言葉は「かっさい」です。笑)

そして、夕方まで楽しんだ後に、「今日も暑かったな、どこかで、ゆつくりお風呂でもなつて思った方がいいませんか? ハイ! ハイ! 天下の名湯「養老温泉」がありますよ!」そして翌日、会社で「加茂つておもしろい、また行こうね!」なんてことになるでしょう。こんなに加茂里山通信員がバーベキューに役立っていたなんて! 笑。以上がちょっととした私ながらの空想の世界でしたが、いかがだったでしょうか?

この様にこの加茂地区でも皆さんのちよつとした発想が、この加茂地区に潤いを与え、活性化できるような気がします。

これから夏本番です。皆さん暑さなかに負けないで、一生懸命働いて、一生懸命遊びましょう!! (小茶里山通信員)

楽器挫折者救済会館の月出小

8月25日開催
8月27日開催

今年もやるよ、月出小!

一昨年、昨年と2回開催された「楽器挫折者救済会館」の月出小が、今年も8月25日(金)、26日(土)、27日(日)の三日間にわたつておこなわれます。

月出小は現在休校ですが、市原市、市原市教育委員会、月出町会のご厚意により、開催が可能となったものです。

最終日の27日は、午前11時頃から会館の成果を披露する「発表会」がおこなわれます。観覧は自由ですので、お誘いあわせのうえぜひご来場ください。

やび北

編集部メンバーと例によって無駄話をしていの中で、こんなアイデアがポロリとでました。「いちばらゴルフカレッジ構想」(妄想?)

将来のプロ選手養成を目指すとともにゴルフ界全体のレベルアップをはかり、さらには健全なる社会人の育成を目的とする。

中学校又は高等学校卒業生を対象として、寮による共同生活を通して、ゴルフのプロを養成しようというものです。

ここで言うゴルフのプロとは、トーナメントプロだけではなく、ティーチングプロをはじめ、ゴルフ場運営、プロショップ、アシスタントコーチ、キャディなど、ゴルフに係わる幅広い職種を指します。

必ずしもプレーヤーでなくとも、ゴルフが好きでゴルフ業界で働きたいという人までまとめて応援します。

授業は、ゴルフの基礎課程から、それぞれの職種に対応する専門課程までのプログラムを用意します。

必要と思われる施設を列記しますと、教室、職員室、寝室、談話室、厨房、食堂、風呂、トレーニングルームなどが考えられます。これらの施設には、例えば廃校になった小学校(もう、お分かりですね!)を利用します。

働き手は、可能な限り地元採用とします。日常、必要とされる消耗品、食材なども地元で調達します。

過疎地の振興策も兼ねて、願つたり適つたりのアイデアではないでしょうか。

しかし当然のことですが、このアイデアを少しでも現実化に照らしてみると、実に様々なハードルが見えてきます。修学年限は何年にするのか。入学試験は、学費は幾らかかるのか。教職員、スタッフをどう集めるのか。開校資金をどう調達するのか。そもそも経営が成り立つのか。所詮素人の無責任な思いつきですが、もしこんな学校ができて、卒業生がプロとして活躍したら、と考えるとちよつとワクワクしませんか。

(北 里山通信員)



加茂
米くらぶ
たより

今年の五月は五月晴れの日が1日もなく、気がつけば梅雨に入ったというのにこれといった雨もなく六月も過ぎてしまいました。どうやら今年は豊作という訳にはいかないようです。皆さんが作っている野菜類はいかがでしょうか？いただき物のきゅうりやなすもいつもの年より風味がないように感じています。

とうもろこしも青ちがわるようです。とにかく、半月もすれば夏休みに入ります。事故もななく真つ黒に日焼けした子供達が元気に9月には登校してくれる事を祈っています。

ところで加茂地区は市原市のなかでもかなり大きな面積を占めている訳ですが、そこに住んでいる人間は少なく、考え方によつては贅沢なこと、一人あたりが使つてゐる土地は都市部の何倍にもなります。猿や鹿さらに猪の数を入れても十分余るほどの野山があります。草刈り機や軽トラックの保有率はたぶん一番だろうし（それがどうした!!!）、生活するにもこれといつて困る事もないのに（スーパーもないし、喫茶店ひとつない!）、どうして若者達は出ていってしまうのでしょうか？来年あたりから団塊の世代が定年を迎えるとの事、せめて出身者だけでも帰つてきて欲しいと願つています。

それにしても、眠い。ワールドカップがはじ
まつて以来へんな睡眠時間になつてしまい、体
内時計が狂つてしまったようだ。ブラジルもイ
ングランドも負けてしまった。よくよく考えた
ら日本がこの場所（ベスト8あたり）にいられ
るわけはないし、そもそもが無理だったのであ
る。4年後なんとか本大会に出られるよう願う
ばかりである。

毎度おなじみ ペップ語の時間です

「あんで日本はかてねーだつて、柳沢はふんと
んたろうすけだなー、おいしいところをきめれ
ねーだかん」「むりだつて、○玉ちつちえもん、
根性がねーよ根性が!」「あにいつてだーよ、
おめーみたことあんのかよ!柳沢の○玉」「み
たことねーけれど、あのかおはぜつてーちつち
えつて、まちげーね!」今回下ネタでスイマセ
ン。

（戸沢里山通信員）

魚屋の戯言

今月23日と来月4日は土用丑の日です。

土用丑の日は立冬、立春、立夏、立秋の前にそれぞれあり、実は年に数日ある事はあまり知られていません。しかし魚屋にとつて夏の土用丑の日は特別で、お客さんのほぼ100%が鰻をお求めになるので、他の魚が殆ど売れない嬉しいような悲しいような日なんです。

鰻は遠い昔から世界中で食べられてきた魚で、ノリストテレスも好きだったと言われています。ところでこの偉大な古代ギリシャの哲学者は「鰻は泥の中から自然発生する」と考えていました。現代の人間が聞いたら思わず笑っちゃいます。そのような話ですがそれも無理からぬ事なんです。その時代から2000年以上経った現在でも鰻の産卵については殆ど解明されてないばかりか、産卵を見た人は誰一人として存在しません。まさに謎の魚と言ってもいいと思います。

日本や台湾、
あるいは中国で盛んに行われている
養殖の鰻でさえも受精卵を作る
事が出来ず、シラスウナギと呼ば
れる稚魚を海で捕まえているのが
現状です。

鰻 **うなぎ**

が外国に行つて、箇切りにして茹でたり油で炒めて食へてゐる現地の人に蒲焼を食べてもらつてというテレビ番組を見た事があります。普段あまり口にしない醤油味なので「どうかな?」と思ひながら見ていたら大好評でした。やはり蒲焼のふつくらした濃厚な美味しさは分かつてくれたようで、ちよつと嬉しかつた事を覚えています。

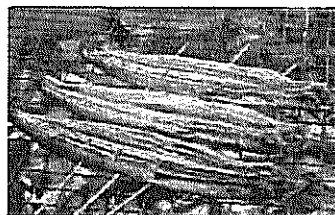
鰻の語源は鰻の胸が黄色い事に由来していて古くは「胸黄」と書いてムナギと呼んでいた事が分かつています。残念な事に胸が黄色い天然の鰻は年々その数を減らして、めったに見かけませんが地元の養老川には時々姿を現してくるのは近隣住民として嬉しい事です。江戸時代の中頃までは、鰻は下賤な食べ物とされていて一般的に食べられることはあまりありませんでした。当時は、脂っこい物は下賤な食べ物として嫌われており、マグロのトロなんかも捨てられていたくらいなのです。

元禄の頃には、屋台の鰻屋なども登場してこれらは鰻をそのままぶつ切りにして串に刺して

て焼いてから、鰻油をつけて食べるものであり上品な食べ物とは言えませんでした。

同じ頃に、関西では裂いてから串に刺しタレをつけて焼く料理法が広まっていた。この方法がなかったら鰻はこんなに人気のある魚になつていなかったかも知れません。それでも串を刺された鰻の形が蒲の穂に似てるという理由で名づけられた「蒲焼き」がそのまま伝わっているのは面白いですね。

江戸時代、土用丑の日には「う」がつく物を食べると身体にいいと言われていて、梅干やうり、うどんなどがよく食べられていたそうです。そんな時代、鰻屋さんの店先に「本日土用丑の日」と大書してくれた平賀源内さんに感謝して今年も鰻を売るぞ〜っ。

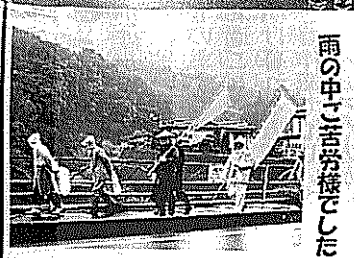
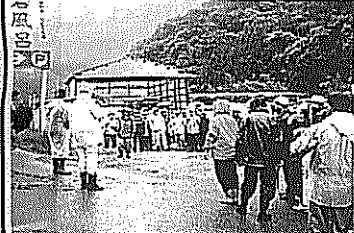


養老川をきれいに

市原市川を美しくする会（岡本良一会長）が主催する毎年恒例の養老川河川清掃が5月18日に養老溪谷温泉街下の河原一帯で行われました。当日は朝からあいにくの雨にもかかわらず、市内全域から約1000名の参加がありました。

この河川清掃も毎年定着し、さらに近年観光客や地元の方々のモラルの向上がうかがわれ、ゴミの量も大分減ってきたようです。今後更にゴミゼロを目指して市民一人一人の努力を期待したいものです。皆が関わる母なる養老川ですから・・・。

以下、今回参加された協力団体です。



後集編

「そうそう、夏休みに入り、家族で出かける機会も増える季節になりました。昨今のツアーブームもあり加茂地区の皆さんもだいたい旅行慣れしてきたようです。中には「国内なんかもう行き尽くして・」なんて、随分楽しいところがあるのでしよう。？ヶ月に一回は飛躍びする方も少なくないようです。」

編 私は今のところ国内旅行しか行きませんが、最近はどこに行つても宿泊設備やサービス、食事、お土産等に殆ど「ハズレ」が無く、積極的にこたわりをアピールしながら、ちよつと知られた所では町の一般人達まで温かく接してくれて、町全体から「おもてなし」の雰囲気を感じられる事が多くなりました。多少費用がかかってもそんな所にいつも行きたいものです。

しかし時々自分の胸に手を当て考えます。さて逆の立場なら自分はどうなんだろう? 「あんなに愛想良く見ず知らずの通り一遍・初対面の人に接することが出来るのだろうか」と思うと、まして「そんな必要があるのか?」とまで考えてしまう自分が付く。何と貧相な思考なんだろうか。

どんなシチュエーションであれ当然無愛想にされれば気分が悪いし、笑顔で接してくれれば自分も周りも全てが良く見えて来ます。それが人間関係の基本に思えます。

お客さんと呼ぶ観光地で直接商売に関係の無いおじさん・おばちゃん達が温かく「もてなし」してくれるのも、利害などとは別のレベルで心を開いているのです。これは最高のお土産です。

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へ
メールでも受け付けます

尚、紙面及び記事に関するご意見・お問い合わせは、市原商工会議所 市原市五井中央西1-22-125
Tel. (22) 4305 加茂支部担当 北までEメールアドレスは

kiita@icci.ichiharachiiba.jp
HP: Δ <http://www.yo-ro-kadoya.co.jp/kamoseinenbu>

次回夏号は10月20日発行予定です



これからの理想の住まい
ホンカ・ログホーム



認定ディーラー **ホンカ房総**

太陽工業株式会社

TEL.0436-95-5641

〒290-0221 市原市馬立414-1 Fax 0436-95-2235
ホームページ www.hanka-house.com/ Eメール log@hanka.co.jp

www.honka-bouso.com

www.honka-bouso.com

より豊かで快適な
社会環境づくりを目指して

人と環境をどこまでも大切に。実り多き未来へ、
杉田建材は、地域の皆様と共に歩み続けてまいります

◎ 杉田建材株式会社

本市南木更	支店	〒290-0549	市原市万田野	2 6 TEL0436(96)1311
原	支店	〒290-0023	市原市惣社	1-1-22 TEL0436(24)0511
支	支店	〒290-0255	市原市牛久	450-1 TEL0436(50)0111
津	支店	〒292-0065	木更津市吾妻	2-7-20 TEL0438(25)4434

本社ビル

市原支店